



平成28年9月9日  
京都市立川岡小学校  
図書館部

9月号

夏休みが終わりました。今年の夏休みは、どんな本に出会えましたか。自分が出会ったすてきな本を、ぜひ友だちや先生にしょうかいしてくださいね。

## 先生のおすすめの本

職員室の前のけいじばんの、先生のおすすめの本のコーナーが、新しくなりました。図書室にある本ばかりですので、ぜひさがして読んでみてください。

5年3組 伊藤先生のおすすめ

「日本の神様のお話」  
どんな神様がいるのでしょうか？

3年2組 大橋先生のおすすめ

「くれよんが おれたとき」  
ともだちが わたしのたいせつ  
なくれよんを おっちゃった！

たんぽぽ学級 大石先生のおすすめ

「ねずみくん おおきくなったら  
なにになる？」  
それぞれの とくいや じまんを  
ゆめにして・・・。



4年3組 小島先生のおすすめ

「とんでもない」

司書 柳沢先生のおすすめ

「ルークとふしぎな歌」

藤原校長先生のおすすめ

「ニュース年鑑 2016」  
ニュースを知れば、世の中  
のことがよく分かります。

5年1組 山下先生のおすすめ

「らしょうもん」

3年1組 加藤先生のおすすめ

「スヌーピーといつもいっしょに」  
スヌーピーは、どうやって誕生した  
のでしょうか？

# うちのひととよもう！

8月には、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催されました。選手たちの活躍を、わくわくしながら見ていた人も多いのではないのでしょうか。

今回のオリンピックでは、日本は金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個、合計41個のメダルを獲得しました。なんと、史上最多の獲得数です。バトミントン女子ダブルス、女子シングルス、カヌー、50km競歩、水泳男子400m個人メドレー、男子卓球団体、個人など、初めてメダルを獲得した種目や、水泳男子4×200mフリーリレー（52年ぶり）、男子体操（12年ぶりの金メダル）、男子テニスシングルス（96年ぶり）、シンクロナイズドスイミングデュエット（8年ぶり）、団体（12年ぶり）など、何大会かぶりにメダルを獲得した種目もありました。惜しくもメダルを獲得することができなかった選手たちも、それぞれに目標を掲げ、それにむかって努力をしてきたことが分かる試合をしていましたね。負けた選手たちはとても悔しそうでしたが、どの選手の試合も、私たちに感動を与えてくれました。

勝負の世界というのは、当然のことかもしれませんが、勝つ人もいれば、負ける人もいます。「全ての試合に勝って、絶対に一位になりたい。」という人もいるでしょうし、「順位は何番目でもいい、とにかく自分のベストを尽くそう。」という人もいるかもしれません。

「勝ち負け」って、一体何でしょうか。一位をとったら「勝ち」、二位や三位、四位、それよりも下の順位の人たちは「負け」なのでしょう。

2004年のアテネオリンピックで、体操競技の男子団体が、1976年のモントリオールオリンピック以来、28年ぶりの金メダルを獲得しました。その日本チームのキャプテンであり、エースだった米田功選手は、こう語っています。「人生を体操しかやってこなかったです。すべてをオリンピックのためにやってきました。本当に体操は『人生そのもの』という感じですね。やることを全部やったので、金メダルが取りたいです。」まさに有言実行で、米田選手は金メダルを獲得しました。

その後は右肩の故障に悩まされながらも、米田選手は2008年の北京オリンピックに向けてこのようなことを語っています。「北京での目標は、まず団体に金メダルですね。当然まわりからも期待されるし、自分たちもねらっていかなければならないと思っています。個人総合でも金メダル。それと、得意にしている床と鉄棒でも金メダルを取りたいですね。それが今の目標です。」

残念ながら、米田選手は北京オリンピックには出場することはできませんでした。男子団体は銀メダルに終わり、その4年後のロンドンオリンピックでも、銀メダルでした。

医師でもあり、作家でもあった斎藤茂太<sup>さいとうしげた</sup>さんは、著書の中でこう問いかけています。「あなたは『世界新記録』を目指す人か、それとも、『自己新記録』を目指す人か。」「世界新記録」というのは、トップを目指すということ、一番上の位置を目指すということです。その場所に立つことのできる人は、世界でたった一人だけです。「自己新記録」というのは、以前できなかったことができるようになったり、少しずつ記録をのばしたりと、自分がひとつ成長したことを少しずつ更新していくことです。

「絶対に世界新記録がいい。一位がいい。」「いや、世界新記録でなくても、自己新記録が更新されたい。」「世界新記録も、自己新記録も目指したい。」いろいろな考えがあると思います。勝ち負けの価値観は、人によって違います。しかし目標に向かってあきらめずに努力し続ける一生懸命な姿は、見ている人に勇気と感動をあたえます。そして、自分の心も成長させてくれます。

9月7日からは、パラリンピックが開催されています。選手たちの背景には、一人ひとりちがったドラマがあります。ぜひ注目してみたいですね。

## 参考図書

- 【「スポーツ感動物語」勝利をよぶ絆より「米田功『体操ニッポン』復活を支えたエース」学習研究社】
- 【斎藤茂太・著「人生がラクになる心の『立ち直り』術」集英社】